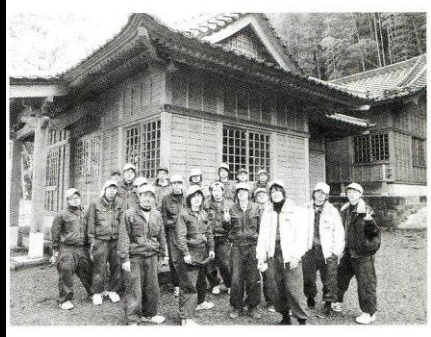
第24回鹿児島ロータリークラブ　青少年功績賞　受賞

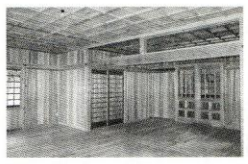
建設新聞記事（H22.3.17）

宮之城技専校建築工学科２年

諏訪神社 ３年かけて改築

宮之城高等技術専門校の建築工学科２年生が19年度から３年かけて連携しながら改築を進めてきた薩摩川内市東郷町斧渕の諏訪神社が完成＝**写真上**＝。立派な仕事ぶりは地域住民に大変喜ばれ、鹿児島ロータリークラブからも第24回青少年功績賞として表彰された。





同神社は１３９０年に建立。１９２５年に大改築して以降は補修しながら保存に努めてきたが、近年は雨漏りがひどく、柱や床の腐食が著しく危険な状態であった。住民らは国の重要無形民族文化財「東郷文弥節人形浄瑠璃」の活動拠点にしようと、斧渕地区諏訪神社改築建設奉賛会（桑波田景美会長）を設立。改築費の寄付を募り、同専門校の木造建築施工現場実習として仕事を依頼した。さらに建材となる杉丸太を会員らで切り出して提供したり、炊き出しなどを行って生徒らを裏で支えた。

同専門校では毎年、２年生になると木造の構造材の切り込みや建て方などを訓練でできる範囲内で施工する現場実習を通して技術の習得を図ってきた。初めて依頼された19年度は本殿（約45㎡）の改築を、20年度から21年度にかけて拝殿（約70㎡）の改築を行い、この３月に完成した。

最後の仕上げを任された今回の訓練生らは、拝殿の建具や内装工事に従事。先輩たちが築き上げてきた素晴らしい出来栄えや信頼を損なうことがないように真剣に作業に当たり、同専門校室内造形科の生徒も建具製作でサポートした＝**写真下**＝。

同専門校訓練第一課の上村大作職業指導技師は「訓練生たちは本当に貴重な経験をさせていただいた。地域の方々の温かいおもてなしにも感謝したい」と語った。拝殿を仕上げた今年の２年生は12日に無事卒業。自信を付けて宮大工や工務店などそれぞれの新たな職場に巣立っていった。

南日本新聞記事（H22.3.12）

「人形浄瑠璃の拠点」完成

宮之城技専生、３年かけ改築

東郷 諏訪神社

約３年かけて改築された諏訪神社＝薩摩川内市東郷町斧渕

薩摩川内市東郷に伝わる国の重要無形民俗文化財「東郷文弥節人形浄瑠璃」の活動拠点にしたいと、住民らが県立宮之城高等技術専門校（さつま町）に改築を依頼していた諏訪神社が完成した。約３年かけた全面的な建て替え。学生は「地域の財産として愛されれば何より」と期待する。

愛される「地域の財産」に

同市東郷町斧渕の同神社で、２００７年から本殿（約45平方㍍）の改築に着手。09年３月に拝殿（約70平方㍍）の外観が出来上がった後、建具や内装工事に移っていた。人形浄瑠璃の上演や練習に使いたいという意向をくみ、拝殿内は柱を設けず空間を確保した造り。

２棟をつなぐ階段設置を残すだけとなり、５日には学生ら４人が採寸作業にあたった。

今春、工務店へ就職する柿田直志さん（19）は「格子状の天井の継ぎ目をそろえるのが難しかった。長く残るものを学生の間に造れて勉強になった」。

改築は氏子や住民らの改築建設奉賛会が計画、同校が実習として引き受けた。建材の杉は会員らで切り出し、基礎工事など除く建築には２年生計62人が携わった“共同作業”。

桑波田景美会長（72）は「重厚な出来栄えに驚き、感謝している。人形浄瑠璃や伝統芸能の奉納の場として活用したい」と話した。

■Data
建築主／斧渕地区諏訪神社改築建設委員会
会長　桑波田景美
施工主／斧渕地区諏訪神社改築建設委員会
場　所／薩摩川内市東郷町斧渕字宮原6402-3
種　別／諏訪神社拝殿改築（内装工事）
面　積／67 ㎡

■Schedule
工　期／平成21年10月 ～ 平成22年3月

■Trainee
大工工事／建築工学科 4期生　　建具製作／室内造形科15期生

2009 木造建築施工現場実習

鹿児島県立宮之城高等技術専門校

Kagoshima Prefectural Miyanojyou Technical Training School